2023年(R5年)
7月
No.374

# ひとはまつり

(題字：三井 裕森)

(ホームページアドレス)http://hitoha-fukushi.com (メールアドレス)honbu@hitoha-fukushi.com

誰でもが笑にくらせる社会を…
HITOHA

社会福祉法人 ひとは福祉会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

あっぷのある甲田町小原地域では、大土山田楽大花田植が開催され、4年ぶりに参加させていただきました。

久しぶりのイベントにきららもスタッフも感覚を忘れていて「あーだったっけ？こうだったっけ？」と言いながらの準備。ひとは会の方々にもお手伝いいただき、そばめしやあっぷの商品、縄文あいすを販売しました。「いらっしゃいませ！」「いかがですか？」「ありがとうございます！」「ひさしぶりじゃのう。元気しとったか？」と地域の方々やお客様との会話。やっぱり良いですね!!
大土山田楽団様、お菓子セットのたくさんの注文、まことにありがとうございました。

この4年間、普段できていたことが難しい状況で、地域とのつながりも薄れていた中でもこうやって繋がりあえることは本当にうれしいことです。

8月には小原ふれあい感謝祭盆踊り大会も開催されるとの事で、振興会さんから出店依頼もいただきました。

普段の日常へ。もう一度地域とのつながりを深めること。改めて一歩ずつ進んでいきます。

(就労センターあっぷ 城崎 高治)

## あたらしく入った ひとはの仲間たち ～スタッフ～

名前 安徳哲
所属 ひとは作業所
ふってわいた3,000円。使うなら何？
長らく関東に住んでいたので、久々にカープの試合が観たいと思い、チケットを買いたいです。

名前 村岡巧
マイクロバス運転
ふってわいた3,000円。使うなら何？
パチンコです。

## 5/26 アグリサポートに編集委員竹内が訪問しました

アグリサポートひとはとは… 田植えをし終えた後に出る苗箱の洗浄をしたり、土壌改良材(発酵もみ殻)を作ったりしている活動場所です。甲田町下小原。

### 午前 エプロン、手袋、長靴を身に着け作業開始

苗箱洗浄機の部品を次々とはめる賀張さん、中森さん

苗箱洗浄の様子：側面をブラシで洗う政本さん、山下さん

「返却した時、苗箱を受け取られた方が最初に目に入るのは側面。きれいになってたら嬉しいでしょ。」(政本)

手動の洗浄機に通す高伏さん、藤原さん

水しぶきがすごい

自動の洗浄機に苗箱を置くこと、出てきたものを受け取るのは人の作業

終了後に「こばさんお疲れ」と声をかける政本さん

### 昼食 アグリで食べる人、吉田口駅近くのあっぷで食べる人に分かれる

川のせせらぎを聞きながら食べることができる

昼食後近くのコンビニで買い物ができる

(あっぷの人は車で移動)

ご飯をあっぷで炊くので炊飯器に入っており温かい。

### 午後 トラックへ積み込み この日は1,017枚

一人が一度に持てる苗箱は10枚くらい 片手で運ぶ山野さん

積みあがった苗箱にひもをかける政本さん「ひもの結び方は細野さん(旧スタッフ)に教わりました」

背の高い黒田さんもひも結びを行う

JAライスセンターや個人宅へ返却

この日は終日、苗箱洗浄の作業をされました。アグリには14名のきららがいます。一人ひとりに合わせて作業を分担されていました。アグリの繁忙期は苗箱の回収(もしくは持ち込み)→洗浄→返却が続くようです。活動場所がひとは本部周辺にあれば、ひとは全体で取り組める作業だなと感じました。(竹内)

# ひとはの日々

## 「ドキドキ」

小学校2年生の三井君から「後で渡したいものがあるんよ」と一言。青春時代のときめきのようにドキドキ!を感じました。

自由時間に「できたよ。はいどうぞ。ね～これなんだと思う?」と。図鑑を見ながら描いた絵と折り紙をプレゼントされました。私は「何かな～」と知っているキャラクターの名前をいろいろ言ってみましたが、正解ではなかったようで三井君はポケモン図鑑を片手に早口で説明をしてくれました。ドキドキと新しい学びで楽しいひと時を過ごしました。

（ひとはぼっこ　鈴川 容子）

## 「いい仕事してますねぇ」

「あ～疲れた」独り言を言うと私の横に末田さんが来て上手に肩もみを。でも10秒くらいで手が止まります。もう少しお願いすると再開。そんなやり取りを数回ほど。時には「あ～背中がかゆい」すると末田さんが直ぐに来てボリボリ。かゆいところを人にかいてもらうのは最高です。おかげで気分良く仕事を再開できます。ほんといい仕事してますねぇ。

末田さんは普段から気の利く方です。私に必要な目配り気配り、そして人のために動ける。これって支援する側にはすごく大切なことですよね。

（共同ホームひとは　越智 玄雄）

## 「小さい私が大きくなったのは…」

ひとは長屋的場邸で高い所を見ていると、住居人が近づいて高い所のものを取ってくれます。包丁が切れにくいと言うと、次に行くときにはなんとよく切れます。いつも本当にありがとう。

この「ありがとう」は、的場邸住居人がよく言っている言葉です。それが影響し、いつしか私もよく「ありがとう」を言うようになりました。そして自分の家族にもよく言うようになり、家族も影響を受け我が家では「ありがとう」という言葉がよく出てくるようになりました。的場邸に行くまでは小さい心の私でしたが、少し大きくなったように思います。

（ひとは長屋　川崎 香苗）

# ひびきあう

（字：三上 潤子）

平成30年度発行　ひびきあう　改訂版

## 「イメージ」

丸岡　洋二

若いころの私は、まさか自分が知的障害者施設で働くとは全く思っておらず、むしろ避けていた人間です。その頃の自分の障害者のイメージは急に叩いたり、噛みついたりするよく分からない人たちだと思っていました。通っていた学校の近くに養護学校があり、大きな声をあげながら散歩をしている生徒と先生の姿を遠くから見ていたことを思い出します。まさに、自分にとっては遠くの世界の話で、関係ないことだと思っていました。その後、農業関係の仕事に就き、そんなこともすっかり忘れ、家のすぐ近くに作業所ができた時も、ただの工場だと思っていたのです。

ある時、この作業所のイベントでディスコをするから手伝ってほしいと、知人から頼まれたのですが、ボランティアみたいな高尚なことをする人間ではなかったので、断ろうと思っていました。ところが、「女子大生が百人来る。」と聞き、自分のために手伝うことにしました。そこで初めて知的障害を持つ方々と直接話をしてビックリしました。スタッフだと思っていた人が利用者さんだったのです。なんでこの人が知的障害を持っているのかわかりませんでした。重度障害の方もいらっしゃいましたが、自分より年上だと聞き、自分がイメージしていた知的障害者とは全く違い、驚くことばかりでした。

私のような人はまだまだたくさんいらっしゃるのではないでしょうか。私はたまたま、近くに作業所ができて、スタッフになったので、利用者さんの魅力を知ることができました。もっとたくさんの人に、彼らのことを知ってもらう方法をこれからも考えていきたいと思います。

## 編集後記

6月初旬、コロナ前までは毎年恒例だった球技大会が広島市内で開催された。ひとはから選抜メンバーとして参加した水附美江さん。翌週、両替してほしいと事務所を訪れる。「いい話があるよ」と切り出した美江さんは「この間の球技大会で優勝したんよ」と。フライングディスクの競技にて、10投中10投入ったよう。「集中したけど、ちょっと緊張したよ」と話す。当日はお兄さんと会うこともでき、久しぶりに楽しめたイベントになったようだ。

（竹内 宏美）